

ハクレン (コイ科)



学名：*Hypophthalmichthys molitrix*

別名：レンギョ

大きさ：全長 100 cm

特徴：体高は高く、側扁している。頭部は大きいが見が小さく、体側中央より下にあるため、シタメとも呼ばれる。

同属のコクレン (写真 1) と非常に似ているが、体色が白っぽいことや暗色の雲状斑が無いこと、キール状の腹面が喉から臀鰭後端までと長いこと (コクレンでは腹びれ起部から臀びれ後端までがキール状) で見分けられる。

国内の分布：利根川水系。本種は中国大陸が原産で、利根川のは 1943 年と 1945 年に行われたソウギョ種苗に混じって放流されたとされている。ソウギョ種苗は茨城県以外にも導入されており、その都度ハクレンが混じっていたと考えられているが、定着したのは利根川水系のみである。

県内の分布：霞ヶ浦北浦, 利根川水系

県内での生態：ふ化後 1 年で 15~25 cm 程



写真 1：1999 年 3 月に北浦で採捕されたコクレン。
コクレンはハクレンに比べると圧倒的に少ないようで、ごくごくまれにしか採捕されない。

度に成長し、最大で 100 cm 程度になる。利根川水系では成熟魚が下流域から埼玉県内まで遡上し、6~7 月頃の大雨の後に産卵を行う。受精卵は浮遊しながら河川を流下している間に孵化する。ただし河川の増水が著しい時は海まで流されてしまうようで、再生産に失敗することもある (海では生存できない)。霞ヶ浦・北浦には、利根川で生まれた後、常陸川水門等を通じて入り込ん

でくる。

備考：中国では重要な水産資源となっており、ハクレン、コクレン、ソウギョ、アオウオを総じて「四大家魚」と呼んでいる。主に植物プランクトンを食べているが、アオコも食べるため、水質浄化に寄与すると考えられており、湖内の窒素、リンの回収を目的とした漁獲も行われている。

主な文献：

加瀬林成夫・加福竹一郎・中野 勇（1966）利根川水系におけるソウギョ・ハクレンの未成魚の生態について．茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調査研究報告, 8: 1-37.

熊丸敦郎・光田三男・浜田篤信・津田 勉（1976）ハクレンの摂餌と成長について．茨城内水試調査研究報告, 13: 45-54.

小沼洋司（1986）ハクレン稚魚の霞ヶ浦・北浦への進入方法．茨城内水試調査研究報告, 23: 1-10.

丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也（1987）外国産新魚種の導入経路．水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所, 157 pp.